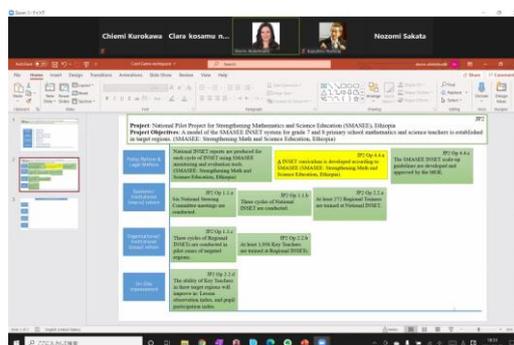
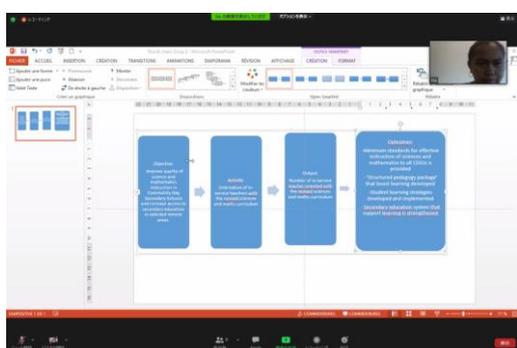


2月25日(木)

3日目のワークショップが開催され、研修員5名が参加しました。「結果の連鎖 (Results Chain)」と「アウトカム (Outcome Indicators)」に関する2時間のグループワークと議論が行われました。

まず、マラウィのプロジェクト概要を事例として、結果の連鎖を組み立てる1つ目のグループワークが行われました。5人の参加者は2つのグループに分けられ、30分のグループワークを行った後、全体で議論内容の共有と質疑応答を行いました。両グループは同じプロジェクト概要を基に結果の連鎖を議論しましたが、全体議論では得られた結果に相違点がみられました。

10分の休憩後、アウトカムという指標の理解を深めるため、カードゲームを用いた演習が行われました。このゲームは、政策改善、マクロレベルにおける組織改善、メソレベルにおける組織改善、現場における改善点の4つのレベルが縦軸に並べられ、アウトカムが記載されたカードがそれぞれどのレベルに分類されるか、を並び替えるものです。この演習も、2グループに分かれて行いました。40分間で3つのプロジェクトが課題として出され、両グループは迷いながらも、カードに記載された言葉の意味を捉えながら演習に取り組みました。こちらのグループワークにも両グループの結果に違いがみられ、自身のグループとは違う点を指摘し、なぜそこへカードを配置したのかと質問し合いました。これらの議論において、吉田先生から「各レベルの項目をどのように定義づけるか」、「誰がプロジェクトの対象者となるのかを考える」とのアドバイスがあり、「その定義、カードの記載内容をどう解釈するかで結果は変わる」との説明もありました。



残りの20分で、3日間のワークショップの感想の共有と翌日の暫定版ナレッジレポートの発表者の決定がなされました。研修員は、「本日のカードゲームは興味深い演習で、指標に関する知識を深めることができた」、「前日の現場の知見を政策形成過程に取り込むという演習から、フィールドにいる人たちを政策形成過程に入れることが重要だと思った」、「すべて興味深く、グループワークを通してプロジェクトの指標に関して多くを学ぶことができた」、などの感想を共有しました。

